特集 「横浜市民生活白書2009」を読み解く

②「横浜市民生活白書2009」の概要 ～不安の時代に生きる8つの市民像

《1》様々な角度から見た市民生活白書

執筆 編集部

1 横浜市民生活白書とは

横浜市民生活白書は、横浜市民の生活意識や実態を把握し、横浜の都市としての課題と魅力を市民と共有するため、昭和39年から3～4年ごとに発行しており、今回で通算12回目の発行となる。

2 市民生活白書2009の特徴

今回の市民生活白書は、不安の時代に生きる8つの市民像とその背景を説明、市民生活を様々な統計調査データから分析していることが特徴である。

第1章では、横浜市民意識調査（2008年実施）の結果から、生活上の心配事やリスクという視点から、8つの市民像を導き出し、その特徴と不安感の背景にある家族や社会の変化を検証している。

また、横浜市民の生活不安の増大や格差の実態など市民の生活について、国勢調査や意識調査など様々な基礎データから分析している。

第2章では、支え手・担い手が減少する市民社会の共同性の再構築を志向する、生活課題解決に向けた地域からの動きを紹介している。

第3章と第4章では、人口動態や産業・経済といった分野別による「都市・横浜」の分析や、より小さなエリアでの変化を捉えるため250mメッシュ統計を用いて地域の特徴を視覚化し、多様化する地域を分析している。

3 市民意識調査に見る生活不安

市民意識調査で毎年調査している「心配事や困っていること」の経年変化では、これまで第2次石油危機、バブル景気とその崩壊といった社会情勢の変化の中でも「心配ごとはない」市民は3割から5割の間を推移してきた（図1）。

しかし、96年に5割を下回ってから「心配ごとはない」市民の割合は減少傾向にあり、2008年の意識調査では約12%まで下がり、約9割の人は何らかの不安を抱えている。

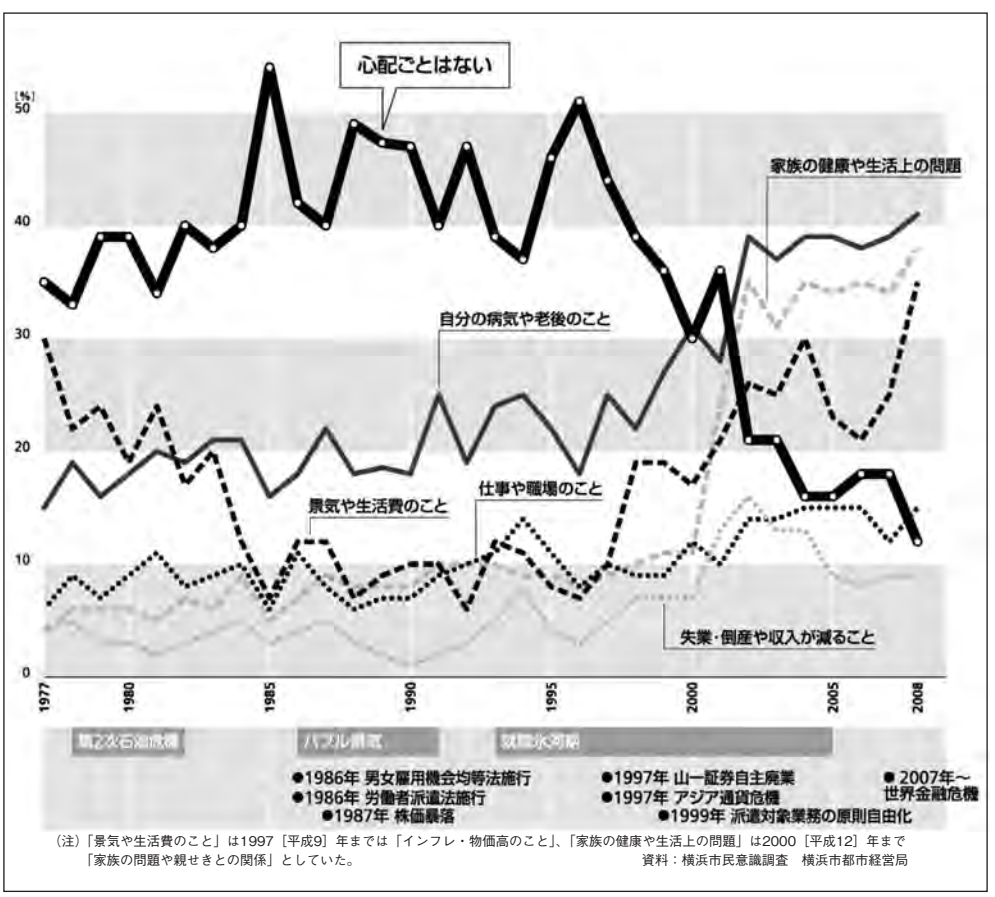

図1　心配ごとの経年変化（白書P5　図1-1）

4―不安の時代の8つの市民像

生活不安を持つ市民の姿を明らかにするために、市民意識調査の質問項目のうち「生活満足度」「心配ごと」「大切にしている人」「頼りにしている人」についての回答から、回答傾向の似た人たちのまとまりをみるための分析を行ったところ、8つの市民像が導き出された。

市民像を生活不安の原因となるリスクの強弱と年代別に示したものが図2である。

図2を見ると、6割以上の市民は強いリスクを感じることなく生活しているものの、一方で、経済的なリスクや健康、人間関係に強いリスクを感じている市民も一定割合存在する。これら8つの市民像からは、異なった生活課題が浮かび上がってくる。

横浜市庁舎1階　市民情報センター等にて発売中
一部　1、000円（税込）。

＜8つの市民像＞

1　経済的に大きな不安を抱える子育て世代　11.4%
2　生活不安のない経済的・社会的にも恵まれた若年世代　12.5%
3　生活の強い不安はないが親族や地域とのかかわりが少ない働き盛り　15.1%
4　健康不安と孤独感の強い向老期　5.6%
5　最低生活の確保に強いリスクを抱えている二つの世代（20代と高齢期前）　5.6%
6　生活不安がほとんどないリタイア世代　9.1%
7　病気や介護の不安があるが、人間関係に恵まれた高齢者　15.4%
8　世代にかかわりなく平穏に暮らしている市民　25.3%

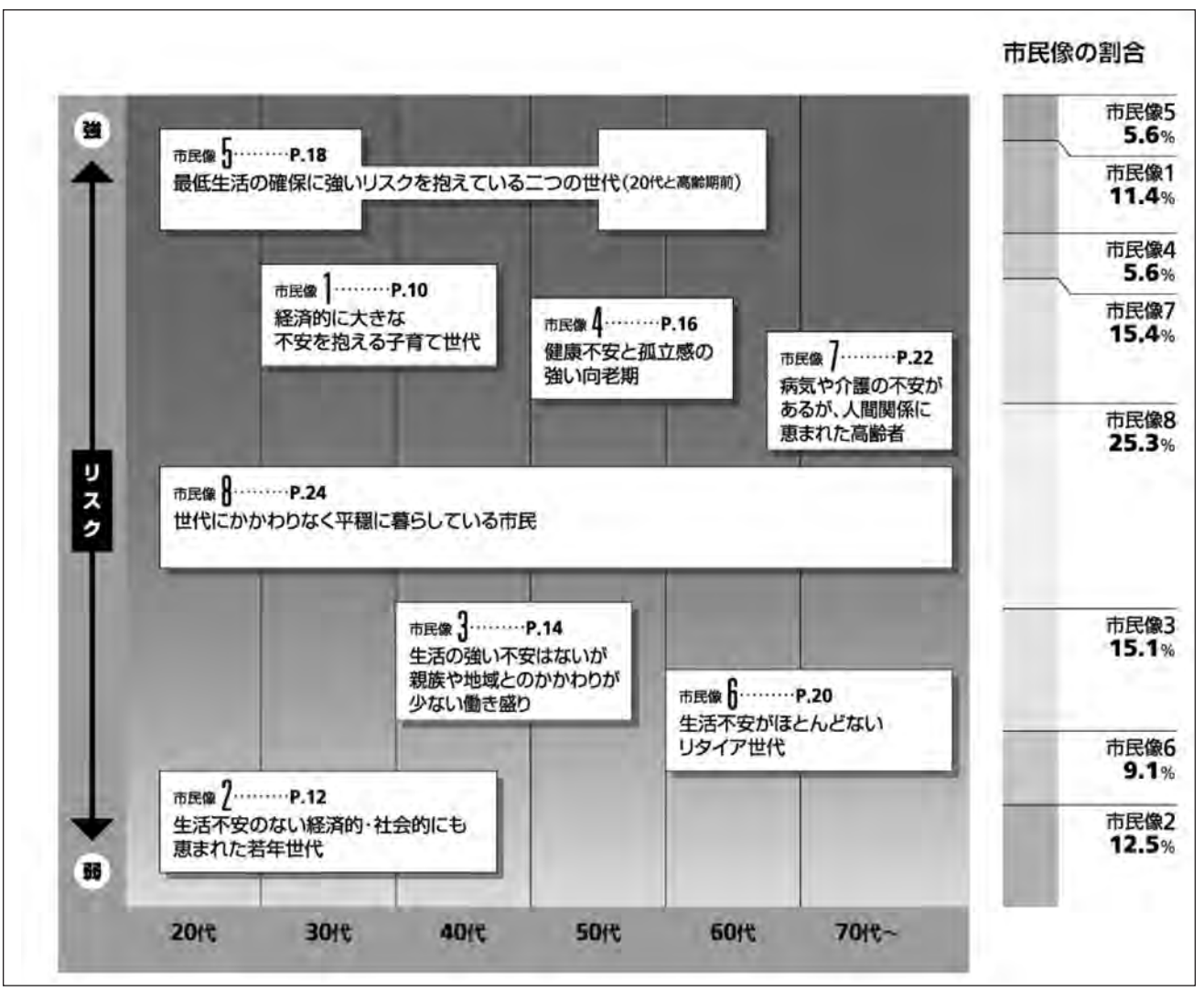

図2　不安の時代の市民像（白書P9　図1-12）